

相談援助職による



～事実をどう表現する？

根拠のある表現とは～

ケース記録の書き方

日時 2022年11月12日(土)
10:00～12:00 参加費無料

定員
92名

場所 関西大学 堺キャンパス
SA402教室

対象 堺市内の福祉関係相談援助職の方
福祉を学ぶ学生 ※応募多数の場合には選考いたします。



申込 下記URL または 右のQRコードよりお申込みください。
<https://forms.gle/XiZ6RVpZPhXLS8XL8>



お申し込みは
「チラシ」

※申込締切：11月4日(金)必着

<講演内容>

複数の専門職が一人の利用者の方に関わりながら、ケアをしていく中で、記録はとても大きな役割を果たしています。利用者の方の気持ちを相談者として客観的に捉えながら、より良い支援につなげるために、相談援助職として、どのように記録に書き、どこまで書けばよいか分からない、と悩んでいる人が多いのではないのでしょうか？援助職としての記録のあり方や書き方について、第三者に読まれるための「記録」としての基本もふまえ実践的に学びます。



講師 八木 亜紀子 氏

福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター 特任准教授
プリンシプルコンサルティング株式会社
プリンシプル職場の心理学研究所 所長
アライ株式会社 代表取締役

【取得資格】米国カリフォルニア州臨床ソーシャルワーカー/精神保健福祉士/公認心理師
国際EAP (Employee Assistance Program) 協会認定EAプロフェッショナル
【専 門】臨床ソーシャルワーク、EAP、専門家倫理

【プロフィール】

米国ウィスコンシン大学大学院マジンソン校(University of Wisconsin-Madison)ソーシャルワーク修士課程修了。
同志社大学大学院アメリカ研究科博士課程単位取得満期退学。

米国サンフランシスコのRichmond Area Multi-Servicesで日英両語で個人、家族、グループ療法を提供し、日系コミュニティへのアウトリーチに従事した。またニューヨークのAon Consulting Inc.でリーダーシップ養成トレーニング、コーチングを日英両語で行った。帰国後(株)イーブで従業員支援に携わるとともに、EAP専門家養成講座を企画運営し、スーパービジョンを提供。筑波大学、東京学芸大学で教職員のワーク・ライフ・バランス支援、女性研究者支援に従事した。また社会福祉法人JHC板橋会ワーキング・トライで障害者の就労支援に携わった。

現在は福島県における被災者支援、相談援助職に向けた記録の研修、組織へのメンタルヘルスやハラスメントに関する研修やコンサルティング等に携わっている。

お問合せ先

関西大学 堺キャンパス事務室 地域連携担当 「相談援助職によるケース記録の書き方」係
〒590-8515 堺市堺区香ヶ丘町1-11-1 TEL:072-229-5024